



TITLE:

地理教材としての地形圖(十二)槍ヶ嶽附[近]

AUTHOR(S):

槇山

CITATION:

槇山. 地理教材としての地形圖(十二)槍ヶ嶽附[近]. 地球 1925, 4(1): 74-77

ISSUE DATE:

1925-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182967>

RIGHT:

地理教材としての地形圖 (十二)

槍ヶ嶽附近

陸地測量部五萬分ノ一高山六號七號即ち槍ヶ嶽、燒嶽の二葉、地質圖は二拾萬分ノ一高山圖幅。參照すべきものは故加藤鐵之助教授が地質學雜誌第二十一卷に出された飛驒山脈の地質に就て、及び故大關久五郎教授が同じ雜誌の第二十三卷に續いて出された梓川上流上高地盆地四近の地形に就ての二文獻。

只今は登山季節のことですから日本アルプスの地圖を出して見ませう。これから一つ登つて見やうといふ御方もありませうが、筆者は數年來行つて見ませんので此頃の様子は知りませんから此一文はとても案内記にはなりません。ただ地形圖に見られる天然の地形だけを記憶をたどつて記してみます。そのつもりで讀んでいただきます。

地形圖の表題は鎗ヶ嶽ですが以前からの山岳家は皆槍ヶ岳だと言てゐます。そんな詮議はと

もかくとして圖の地名に誤りがあります。鷲羽嶽とある山頂は蓮華嶽または三俣嶽と言ふのが正しくて其東北にある二九二四・二高地が眞の鷲羽嶽になります。蓮華嶽とあるのが双六嶽で或は南蓮華嶽と稱してゐます。水晶山は黑嶽の方が通りがよろしく中ノ俣嶽は黒部五郎と曰ふ方が有名で鷲羽嶽の東北にある圖の五郎嶽は高瀬五郎と呼んで之と區別してゐます。しかし同じ山でも信州側と飛驒側では名が異つてゐますから一概にどれが正しいとは言へません。新聞によく出てくる燒嶽は信州側の名で飛驒では硫黃嶽と稱するのがそれでありませう。

此あたりは日本の屋根で高い山が幾つも重りあつてゐます。地理の方では飛驒山脈と申しませんが俗には日本アルプスと呼んでゐます。山は

低いが清い水と偃松の緑と岩石の紫色の肌と純白の残雪との取り合せの美しさは本物のアルプスに優るさうです。實際中房温泉あたりから晝なほ暗き森林帯を五時間もかゝつて登つて始めて燕嶽の尾根^{リッデ}に立つた人はばつと急に開かれた意外の風景——かつて平地では知り得なかつた美しい大きな景色に恍惚として陶醉しました。ちどころに出嶽愛好家の仲間に入るやうにされてしまひます。しかしながら本物のアルプスの豪放雄大な荒けづりの大いさと申しませうか高山特有の急角度をもつた地形はとも見られませんが、やはり日本式の軟かみのある親しみの深い景色のやうです。つまり向ふのは男性的で此方のは女性的なものでせう。女性的だと申しましても山は深く高いので、うか／＼近よれば命をとられます。出かけるには充分の用意が必要です。

さて地形圖でやゝ高山地形の見えるのは槍ヶ嶽と穂高嶽とを連ねる山脈です。圖で讀んでも他には見られぬ急傾斜と鋭い角度のある尾根と

地理教材としての地形圖(槍ヶ岳附近)

がわかります。岩石の崖が無暗に澤山記號してあります。槍から穂高へ縦走しますには充分なる山の經驗と膽力とが必要です。氷霜の作用により破壊しつゝある玢岩は一寸觸つてもガラガラとくづれ落ちるほど緩んでゐまして所によつて角ばつた石と石との隙間から殆んど直立してゐるほどの深い梓川の谷がのぞけたりしてゐます。だから此處を通過するには必死の努力が必要です。だから此處を通過するには必死の努力が必要です。大きな崖錐となります。主として重力に稍水力の加つた崖錐と扇狀地の中間の形式である碎屑扇狀地(*Chutkegel*)が見事に發達してゐます。此様な多量の碎屑の中を網の目の如く流れた梓川は朝に夕に其流路を換へながら地均をして行きます。此様にして上高地の盆地は成長しました。勿論硫黄嶽の噴出物が峽谷を堰止めたのが一つの成因でせうが、其は日光の中禪寺湖をつくつた男體山の熔岩の如く厚大なものではありません。盆地の平坦部はごうしても槍ヶ嶽、

穂高嶽山脈の優れた氷霜の作用による多量の岩石碎片の押し出しが一番大事です。

此山脈は日本アルプス中で最も高い部分ではありませんが、最も奥深い部ではありません。總ての關係から日本アルプスの中心は三俣、双六の二嶽附近であります。しかし此あたりの山はずつとなめらかで圓みがあり穂高嶽のやうな峻嶒なところがありません。其理由は風化し易い花崗岩であるからであります。三俣嶽は信濃、越中、飛驒の三國の境でありまして此山から出た水は四方に流れて居ります。槍ヶ嶽の北には赤嶽、硫黃嶽などの火山があります。硫黃嶽の東北には俗に地獄と稱して盛んに湯の出てゐるところがあります。此處は霰石といふ礦物が出て有名です。鷲羽嶽も火山です。圖に立派な噴火口が見えます。その西北には雲ノ平(奥ノ平と記してありますが、あまり通用してゐません)といふ高原があります。此は熔岩流の台地ださうですが行つた事がないので本當の事は知りません。此等の主山脈の東と西に南北に走る前山があ

ります。東の燕嶽ツバクラから大天井嶽オアシシヨウ、常念嶽への山脈は美しい花崗岩から出来てゐます。槍や穂高ほど氷霜の作用がまざ／＼とは働いてゐませんのですが、以前には同様に盛に働いたものですから岩石の碎片が出来て其が稍安定の位置に止つた形を示してゐます。岩片は大きな角ばつたものですが風化して幾分圓みをもち草木に閉ぢられてゐます。岩片と岩片との積み重つたものから隙間があります。此様な所を山人はゴートと申して居ります。しかし大天井から槍への山稜は鎌尾根と言つてゐるほど鋭くあります。所謂アレートでありまして今まで通過した人があまりありません。

常念嶽より南の蝶ヶ嶽あたりからは古生層で山はずつと低くなります。地形も高山特有の趣はなくただの山の大きいものにすぎません。西方上ノ嶽から太郎山の方面は珠羅紀層より成つてゐまして山頂は平です。或は準平原の殘物かも知れません。

日本アルプスには氷河の地形がおぼろげに残

つてゐます。第一にカールです。カールはお碗を半分に分つた様な形で小さな懸氷河のあつた跡です。薬師嶽の東面に立派なのが三つか四つ並んでゐます。黒部五郎にもありません。高瀬五郎にも美事な形が地圖に讀まれます。カールの底には小さい池があります。池の外堤は堆石(モレーン)であります。三俣から双六への東斜面は圖では不明でありますがカールを作つたよりも大きな懸氷河(崖氷河)の削磨の跡ださうです。槍ヶ嶽の槍澤の谷も長く延びたカールであり、穂高嶽の嶽澤(南面の谷)や横尾谷も小さい

谷氷河の流れた跡であるといふ説で有ります。辻村學士は穂高嶽の地形は氷河輪廻の壯年期で營力の休止した状態であると説いて居られます。カールは二千五百米以上に限られてゐるやうです。高山には植物帯の垂直分布がよく觀察できます。高い山の頂上に近く矮松の符號が澤山見えます。これは偃松帯であります。偃松帯の下には針葉樹林帯が發達してゐます。トウヒ、シラベ、カラマツなどでシラカバなどの闊葉樹が

地理教材としての地形圖(槍ヶ岳附近)

混じてゐることもあります。偃松帯には偃松の他にタケカンバやミヤマナカマドなどが混じて美しい高山植物が澤山にあります。穂高や槍は草本帯を突破せんとする勢がありまして山頂には草本も少くなつてゐます。

日本アルプスには残雪がありますが氷に化した眞の萬年雪はありませんから地圖には表してありません。(槇山)

火山號の發行

本年十月を期し火山に關する論説、火山の記載、火山の風物を記事とした「地球」の特別倍大號を發行する計畫を建てた。地球學團員の研究された所、行かれた山、其他火山に關する萬般についた寄稿を歓迎する。締切は八月二十日とする。火山國たる日本の民衆はもつと火山の知識に富まねばならぬと思はれるから、學團員の援助によつて我等の編輯天に冲する意氣を世に示したい。